

平成 30 年度 北海道小学校長会 第 4 回理事研修会 2018.12.17
第 62 回道小教育研究

胆振・苫小牧大会

シンボルマーク・キャッチフレーズについて

胆振管内校長会では、「道小教育研究胆振・苫小牧大会」の開催に向け、平成 29 年度に準備委員会を立ち上げ、準備を進め、今年度、業務内容を実行委員会に移行した。



まずは、この準備委員会及び実行委員会で検討し、提案した 2 点について説明する。ご協議していただければと思う。

1 点目は、キャッチフレーズについてである。

キーワードを「世界とつながる」、「未来を紡ぐ子ども」そして、開催地である苫小牧市の地理環境を意識した「北のゲートウェイ」とし、検討した。

「苫小牧市」は、道央自動車道が通り、世界初の内陸掘込港である港を有し、新千歳空港が隣接している。「陸・海・空」の交通の要所であり、世界各地から人、物、そして情報が集まる街である。

「胆振・苫小牧大会」を通して、苫小牧の地に全道各地から参加していただいた校長先生方に「今、求められる学校経営」について、熱く議論を交わしていただき、その成果を苫小牧の地から、各地へ広く発信したいという願いを抱いている。

このような願いからキャッチフレーズを

「世界とつながる北のゲートウェイ苫小牧から

未来を紡ぐ子どもたちに豊かな感性と想像力を！」と提案する。
ご協議の程 よろしく願います。

2 点目は、シンボルマークについてである。

今、説明させていただいたキャッチフレーズをイメージし、港を行きかうフェリー、頂上のドームが特徴的な樽前山、工業都市のシンボルとしての赤い煙突の工場など、苫小牧の代表的な風景を配し、苫小牧の市章をイメージした線で全体を包み込んだ。空に向かってはばたく白鳥は苫小牧の「市の鳥」でもあり、「研修成果の発信」を表現している。

キャッチフレーズ同様、ご協議の程よろしく願います。

引き続き、大会運営の進捗状況について説明する。

まず、会場についてである。

全体会場は、苫小牧駅から徒歩 15 分程度の「苫小牧市民会館」である。

分科会会場は、ホテル等の民間施設の会場使用料が高額なため、公共施設を基本に 8 施設 13 会場を確保した。どの施設も全体会場の「苫小牧市民会館」から徒歩 15 分圏内である。会場の広さにばらつきがあり、一番狭い会場で定員は 50 名となっている。各分科会の参加人数については、今後、道小研修部と検討していく。

また、分科会会場の施設には十分な駐車スペースがない。移動は徒歩でお願いすることになる。駐車場は全体会場の「苫小牧市民会館」に、150 台程度のスペースがある。近隣の小学校のグラウンドの一部をお借りする予定であるが、雨天の場合は、借用を控えることも予想される。できるだけ、公共の交通機関で参加していただければ、幸いである。

次に記念講演についてである。

株式会社チャックスファミリー代表取締役

安孫子 薫（あびこ かおる） 氏を講師にお招きする。

安孫子氏は、元ディズニーリゾート運営部長を務め、ディズニーランドやディズニーシーの運営やキッザニア東京の事業展開に携わっていた方である。ホスピタリティや経営マネジメント、人材育成など幅広いテーマでご講演いただけるものと思う。

また、今年には北海道命名 150 周年ということで、さまざまな記念事業が全道各地で行われている。苫小牧の開拓の礎となった八王子千人同心が苫小牧に入植したのは、西暦 1800 年、今から 200 年以上も前のことである。「八王子千人同心」の苦闘と哀歓を表現した民族芸能の「太鼓」が入植した「勇払」地区で伝承されている。

来年度、皆様が苫小牧にお越しの際には、地区の小学校の子どもたちの「太鼓」の演奏を聴いて、苫小牧の歴史の一端に触れていただく機会も設けたいと考えている。

北海道小学校長会教育研究大会が苫小牧市で開催されるのは平成 2 年以来、実に 29 年ぶりの開催になる。胆振管内でも平成 16 年の伊達市以来 15 年振りである。

現在、苫小牧市小学校長会はもとより、胆振管内校長会とともに、今年

の函館大会の成果を更に充実・発展させるべく、組織を挙げて準備に努めているところである。

平成 25 年の三重大会から続いた研究主題の最後の大会でもある。北海道小学校長会事務局の皆様のお力添えをいただきながら、今後も多くの成果が得られる教育研究大会になるよう準備を進めていく。

来年、苫小牧でお待ちしている。